

職場の近くに老舗の和菓子屋があるのですが、毎月和菓子のラインナップが変わります。6月は紫陽花の形の和菓子。7月、8月は水羊羹などの涼しそうな見た目の和菓子。9月は青い柿、10月は食べ頃の赤い柿、11月は完熟の真っ赤な柿をイメージした和菓子が店頭にならぶので楽しみにしています。

細かい季節感があり老舗の和菓子屋はさすがに違うと感心していました。年末年始や彼岸などのイベントだけではなく、日本の季節と結びついています。

しかしここ数年、地球温暖化の影響でしょうか、実際の季節はかなり変化しています。夏が長く春と秋が短い、とくに秋が短いように感じます。9月いっぱい夏は暑さが続いて、涼しくなったと感じるとあっという間に冬になっている気がします。和菓子の季節感も実情とずれてきてしまっています。こうした傾向はこれからも続くのではないかと思います。

CO₂削減目標を掲げて各国が取り組んでいます。なかなか簡単にはいかないようです。さらに目標を達成してもすぐに気温や気候は戻らず、もとに戻るまでに相当な時間がかかるでしょう。

結局、しばらくは今の温暖化傾向に適応しながら生きていくしかないと思います。季節の和菓子も夏向けを増やして秋は1カ月くらいのほうが現実の季節感にあっているかもしれません。

自然環境の変化につれて生活も変わっていくでしょうが、変化を受け入れつつ季節感を大切にしていきたいものです。

(M.K)

前号の編集後記でChatGPTについて書きましたが、その後さまざまな団体や企業の冊子等でChatGPTについての記事が目につくようになりました。自社あるいはその業界での利用法や利用するうえでの注意点という視点での記事が多いです。

ChatGPTは学習済みの大規模言語モデル(LLM)を搭載したテキスト生成AIのことで、利用者が入力したAIへの命令文(プロンプト)に対して、最も関連性の高い文章を紡いで出力してくれます。ところが、単語の意味や文脈は理解していないようで驚きました。つまり、事前学習された膨大な量のデータセットの中から、関係性の深い単語がつなぎ合わされて出力されているだけで、単語それぞれの意味や文化背景を理解した回答という訳ではないのです。それでよく、あれだけ精度の高い文章になるものです。

また、回答精度はプロンプトに依存するようで、利用者が「本来望んでいる出力文」を引き出すためには、相応の命令文作成のためのコツ(プロンプト研究)が必要となるようです。AIに仕事を奪われる人も少なくないでしょうが、より良い出力文を引き出すことができるプロンプターが重宝されるようになるかもしれません。

今後、課題などで楽をしたい学生が読書感想文や小論文生成などにAIを多く使うようになると、人間の作文能力がどんどん衰えていくのではないかと不安がつのります。などと書いているこの文章も、ChatGPTの出力文かもしれません。笑。冗談です。

(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

Raisers第71巻第4号(通巻第761号) 2023年7月10日発行

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)